

神鷹徳治

那波本の源流と成立

The Origins and Establishment of the Nawa Edition

KAMITAKA Tokuharu

- ①〈旧鈔本〉の成立と伝存
- ②那波本「白氏策林」と旧鈔本及び『文苑英華』

【語文翻訳】

我が国には、唐鈔本（作品が写本から版本へと形態が移行する以前、書写で流布していたテキスト）に由来する旧鈔本と呼ばれる写本資料が伝存している。金沢文庫旧蔵の『文選集注』や、『白氏文集』は、そのよく知られている旧鈔本である。この旧鈔本は、白居易詩文の本来の編成と本文とを留めており、テキストとして極めて貴重な資料である。現在、中国や日本の『白氏文集』の版本の中では、日本の元和四年に那波道円によって刊行された木活字本『白氏文集』は、その旧編成を留めるテキストである。ただ、版本があるので、その本文は宋本系のテキストに属している。ただし、旧編成であるので、その直接の底本は北宋刊本かと推定される。北宋刊本には、旧鈔本の本文が、これまた遺存していたと推定される。今回、私は、特に『白氏策林』の四巻を中心にして、那波本・朝鮮本（整版本・活字本）・紹興本との細かい異同を調査してみた。その際、『管見抄』（旧鈔本）及び北宋前期に成立した『文苑英華』の本

文も参照した。その結果、那波本には、上述の推定の如く、少数の例ではあるが、旧鈔本の本文あるいは北宋刊本の本文が遺存していることが判明した。今後は、他の卷数に対しても、以上の諸本を使用して細かい校異を作製することによって、従来埋もれていた旧鈔本乃至北宋刊本の本文を見いだすことができるのではないか。日本所在の那波道円刊『白氏文集』の諸本には、旧鈔本との異同が書き入れられているテキストが少なからず存在している。宮内庁所蔵の那波本『白氏文集』がその一本である。中国本土では唐鈔本はもとより、旧編成を残していた北宋刊本も全く滅んでおり、南宋版も前詩後文本の新編成の宋版しか遺っていない。従つて、那波本の旧編成は『白氏文集』全体を解釈する為には極めて貴重な資料と言えよう。那波本の直接の底本となっている朝鮮版（整版本・活字本）との校異が、今後の大きな課題である。

【キーワード】 旧鈔本、北宋刊本、紹興刊本、那波本、朝鮮版